

令和 元年 5 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26370427

研究課題名（和文）イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究

研究課題名（英文）Improvement of Field Study Materials of Iranian Storytelling and Folkloristic Applied Research

研究代表者

竹原 新 (TAKEHARA, Shin)

大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授

研究者番号：20324874

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：イランの口承文芸に関する資料整備、フィールドワークによる資料収集、民俗学的応用研究が本研究の主な活動である。イランの口承文芸資料の構造化資料の拡充を進めた。イランにおけるフィールドワークを通して、映像、音声、画像データといった資料を収集した。音声データについてはペルシア語コーパスデータとして整備した。さらに、イランで収集した資料を用いて、イラン民俗学の観点から研究を行った。特に、怪談や呪術に関する研究が進展した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して、イランの口承文芸に関する現地調査の資料が整備され、民俗学的研究が進展した。本研究で整備拡充した規模のイランの口承文芸の録音に基づく正確なコーパスデータは類を見ないため、イラン文化研究及び口承文芸研究の分野における意義があり、将来に亘って基礎的且つ重要な資料となることが見込まれる。また、怪談や呪術の研究を中心として得られた成果はイラン民俗学だけでなく、関連分野に波及することが見込まれる。

研究成果の概要（英文）：The basic activities of this research are improvement of material on Iranian folklore, resource acquisition of Iranian folklore through fieldwork in Iran and folkloristic applied research. A structured database system has been developed. Material of Iranian folklore such as viewdata, image data and voice data has been gathered through fieldwork in Iran. Voice data has been dictated and saved as Persian corpus data. Furthermore, there are some results in the field of Iranian folklore, especially on ghost stories and magic in Iran.

研究分野：イラン民俗学

キーワード：外国語(中・英・仏・独除く) 外国文学(中・英・仏・独除く) 民俗学 口承文芸 フィールドワーク イラ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) イランの口承文芸に関しては、質および量の両面で信頼できる資料の収集が求められる状況にあった。そこで、研究代表者(竹原)は、平成10年度にイランに8ヶ月滞在して集中的に口承文芸を中心とする現地調査を行い、その約200例の収集資料と研究成果を平成13年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)により公刊(竹原 新、『イランの口承文芸 - 現地調査と研究 - 』(溪水社、2001年) 1頁~942頁)した。

(2) さらに、平成15~17年度科学研究費補助金(若手研究B)、平成18年~20年度科学研究費補助金(若手研究B)、平成21年~24年度科学研究費補助金(若手研究B)などによる研究活動によって、研究代表者(竹原)がイランで資料収集を断続的にを行い、ペルシア語口承文芸資料のデータベース化を行ってきた。

(3) 我が国とイランの外交関係は比較的良好であり、研究代表者(竹原)も現地の研究機関および研究者等との関係を良好に保ってきた。本研究分野は、欧米の諸国とは異なり、文化的、宗教的対立がほとんどないという我が国の利点を十分に活かすことのできる分野であった。調査の対象となるイランの民衆も概ね親日的であるため、これまでも円滑に現地調査を実施してきた。このような研究環境の中、本研究を誠実に実行することにより、イランの口承文芸資料の基盤整備が求められる状況であった。

2. 研究の目的

研究代表者(竹原)は、これまで、イランの口承文芸に関する音声資料を現地でフィールドワークにより断続的に収集し、資料整備を進めてきた。本研究の目的は、これまでに行ってきた資料収集に関する知見を元にして、新規資料を加えながら、ペルシア語コーパスを備えた総合的なイランの口承文芸資料の基盤整備を進めると共に、これらの資料を用いて民俗学の立場からイランの口承文芸について実証的に分析することであった。

3. 研究の方法

(1) イランでフィールドワークにより口承文芸に関する調査を行った。新規調査の実施と並行して、過去に収集した資料に関する疑問点などを確認するための調査を行った。この作業は高度な現地感覚と経験が必要なため、実施する場合は研究代表者(竹原)が直接行った。話者の住所や氏名等の個人情報記録する場合は、同意を得た上で記録し、その取り扱いは慎重に行った。この調査を通して、映像、音声、画像データといった資料を収集した。

(2) イランで収集した音声データについては、資料毎にレコード化し、話者情報、資料情報、ペルシア語コーパスデータを中心とする資料として整備した。また、これまでに収集した口承文芸資料を効率的に民俗学研究に使用するために必要な基礎資料の整備を進めた。一般的なペルシア語コーパスデータとして使用できるレベルの資料を整備するとともに、これまでに整備を進めてきた Global Document Annotation (GDA) というタグ付け方法を応用する形でペルシア語の統語情報などが付与される構造化資料を拡充するための作業を行った。これらの作業においてはペルシア語の専門知識を有する大学院生等の研究補助者を活用した。

(3) 本研究により整備が進められた資料について検証を行いつつ、民俗学の観点から研究を進め、特に、怪談や呪術に関する調査を行った。

4. 研究成果

イランにおける現地調査、資料の整備、および、民俗学的研究の3点を中心として活動を行った結果、次のような成果が得られた。

(1) イランにおける現地調査

イラン・イスラム共和国テヘラン州内において、平成26年度から平成30年度までの毎年度、口承文芸に関する現地調査を行い、過去に収集した資料に関する疑問点などを確認するための調査を行うとともに、新規に音声データ、話者の写真を中心とする画像データ、映像データ等を収集した。各年度における新規調査の内容を各レコードのタイトルを示すことにより簡潔に示す。

平成26年度の調査内容

「まぬけなハサン」_」「毎年、小麦の収穫を喜捨していた老人」_」「神は万人に一定の運を定めてきた」_」「ハンマームのジン」_」「夢で自分と争うこと」_」「夜、掃除をしてはいけない」_」「人前でお金を数えてはいけない」_」「悪い夢を人に話してはならない」_」「邪視」_」「瘤の上の瘤」_」「難儀な木」_」「新月を見ること」_」「猫を叩いてはいけない」_」「ベスメッターと言いながら炭を消すこと」_」「足の左右を決める習慣」_」「ニンニクと玉ねぎの皮を落としてはならない」_」「木の下で寝てはいけない」_」「家の中の蛇」_」「猫に水をかけてはならない」_」「猫を殺してはならない」_」「邪視」_」「旅立つ人の後ろで泣いてはいけない」_」「キャレオパーチェによる男女の見分け方」_」「パン生地による生まれてくる赤ちゃんの男女の見分け方」_」「梟の不吉」_」「夢で梟を見ると不吉」_」「夢の中で人の指をつかむこと」_」「縁起の悪いものを見たり聞いたりしてしまった時のお呪い」

平成27年度の調査内容

「最良な神の僕と最悪な神の僕」、「最初の売り上げ」、「ジンがシャツや風呂敷を破るという言い伝え」、「エマーム・ハサンモジュタバ（エマーム・ジャヴァード）のソフレ、緑のソフレ」、「産婦の保護」、「産後6日目の前の晩のスープ」、「呪詛破り」、「赤ちゃんのへその緒を壁に入れること」、「家に二人の働き者の主婦がいれば、膝まで埃（ほこり）ができる。」、「お前はラクダを見たけど、見てないぞ（誰にも言うな）」、「賄賂を使え」、「あごひげとハサミはあなたの手の内にある」、「水盆には7つの取ってがあっても、晩昼の食事が無い。」、「恐れをなくす方法」、「40の鍵と病人」、「クルミ作りの男」、「風呂でジンを見たこと」、「浴室でジンを見たこと」、「靴に塩を撒くこと」、「ハンマームのジン」、「ゴッペビードアンジール」、「バーバゲリー（目玉の形をした宝石）」、「車などを新しく買った時に動物の血を付けること」、「ハンマームのジン」、「祈祷による病気の治療と問題の除去」、「熱湯とジン」、「瘤の上の瘤」、「マルデズマー」、「天使」、「袋作り用の針」

平成28年度の調査内容

「肉屋の若者」、「ビート売りのおやじ」、「モハッラム月10日のアーシューラーの願掛け」、「ホセインの息子（アリ・アクバル）の願掛け」、「早朝にジンを見たこと」、「夜中にジンを見たこと」、「羊の群れの中のジン」、「ハンマームのジン」、「花嫁とジン」、「馬とジン」、「春の雪」、「蛇が守る財宝」、「シラコバトの鳴き声」、「獵師の大將」、「川の中の口バ」、「モハッラム月の風習」、「墓場の厄について」、「小麦や大麦にコーランを唱えること」、「ハサミに関する立屋の俗信」、「ジンの目」、「マルデズマー」、「ジン使いのジャアファル」

平成29年度の調査内容

「瘤の上の瘤」、「壁に釘を打ち付けるときにアッラーの御名においてと言うこと」、「夜に木の下で寝てはいけない」、「ジンの出産」、「父親の幽霊が子どもたちをなだめた話」、「性犯罪者が負う代償」、「戦場のジン」、「吉日」、「出発後のスープ」、「願掛けのスープ」、「バフタク」、「犬とジン」、「ジンとの遭遇」、「家の中のジン」、「家畜小屋のジンと牛の飼料」、「ジンと雌鳥とひよこ」、「ジン憑き」、「ハンマームのジン」、「アズマーベヘタラーン」、「整備士のジン」、「家の中でジンを見たこと」、「ジンとの結婚」、「シャムサーバードの聖廟」、「シャムサーバードの聖廟」、「建物が壊れること」、「死者の霊が戻ってくること」

平成30年度の調査内容

「庭園でのジンの祭り」、「部屋の中のジン」、「シャフリヤールのジン」、「絨毯織り職人の俗信」、「ホッラムアーバードのアーシューラー服喪儀礼」、「ジンに遭遇したので針を刺し、そして、ジンが消えた話」、「ジンに遭遇し、ジンに頼まれてついていき、宝をくれる約束をした話」、「結婚式や葬式をする家族を助けること」、「ジンのザアファル（ジャアファル）」、「アールの話」、「ハンマームのジンの話」、「口ひげの長いジン」、「ジンとの情事」、「泉のジン」、「ドゥーラーブ地区のゼイノルアーベディーンの子孫」、「ヴェルダムヴェルダム、ヴォルダムヴォルダム」、「無くし物」、「邪視(1)」、「邪視(2)」、「ジンによる服の紛失」、「体の6方向への祈り」、「妊婦が死者をみること」、「邪視持ちが地面を見ること」、「羊飼いとスルタン・マフムードと大臣の話」

(2) 資料の整備

これまでに収集した口承文芸資料を効率的に民俗学研究に使用するために必要な基礎資料の総合的な整備を進めた。上記4-(1)の～で言及した収集資料に関しては、音声データをペルシア語で文字起こしをした上で、資料情報（資料番号、題名、分類、録音時間、採話日、採話地等）話者情報（名前、年齢、性別、職業、伝承者等）及び、顔写真（肖像）を付してレコード化し、ペルシア語コーパスデータとして使用できる状態にした。また、一部の資料については日本語訳を行った。また、過去に収集した資料に関する不明点についての確認調査を行うことによりデータの質の向上を行った。さらに、GDA方式を応用する形でペルシア語の統語情報がタグ付けされ、各単語を、意味属性を含む辞書ファイルに参照させたイランの口承文芸に関する構造化資料について語義のズレ等を修正する作業を行うことによりデータの精度を上げた。なお、データには話者の個人情報を含むため、細心の注意を払いつつ作業を行った。

(3) 民俗学的研究

本研究によりイランで収集及び整備した資料等を用いて、民俗学的研究を行った。『イラン研究』第11号に掲載された論文「現代イランの吉凶観」で、イランの俗信の吉凶観に関する事例を整理して提示した上で、現代イラン人の俗信は現世の吉凶が動機となること等を明らかにした。『イラン研究』第12号に掲載された論文「現代イランの呪術」で、現代イランの呪文が「祥福・増殖」と「防御・除災」を機能とする事例を中心に見られること、意志呪術を含む複数の呪術の原理が組み合わされて成立することがあることなどを示した。『説話・伝承学』第25号に掲載された論文「イランの怪談」で、イランには独自の世界観や恐怖感覚に基づく怪談群が存在し、それらが家族や親戚内で伝承されていることを示した。『昔話 研究と資料』第45号に掲載された論文「イランの昔話とフィールドワーク」で、昔話研究における民俗学的方法の発展の可能性は今後もフィールドワークにあることを示した。『イラン研究』第14号に掲載

された論文「イランの憑霊譚」で、イランには、憑霊モチーフを核モチーフとする、いわば憑霊譚として類型化できる話群が存在し、その個別の事例の中には、さらに同じ話型として類型化できる話群が少なくとも3種類はあることが明らかにした。『イラン研究』第15号に掲載された論文「イランの妖怪制御譚」で、イランの妖怪憑霊譚と妖怪制御譚は、一見、別々の話群に見えるが、それぞれの核モチーフは「妖怪が人間を『制御』または人間に『影響』している状態」及び「人間が妖怪を『制御』または妖怪に『影響』している状態」という相互に対立する概念に基づいているもので、この意味で両者が表裏一体の話群であると言えることなどを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

竹原新、イランの妖怪制御譚、イラン研究、査読有、第15号、2019、17-31

竹原新、イランの憑霊譚、イラン研究、査読有、第14号、2018、33-56

竹原新、イランの昔話とフィールドワーク、昔話 研究と資料、査読無、第45号、2017、60-71

竹原新、イランの怪談、説話・伝承学、査読無、第25号、2017、27-42

竹原新、現代イランの呪文、イラン研究、査読有、第12号、2016、17-42

竹原新、現代イランの吉凶観、イラン研究、査読有、第11号、2015、169-199

〔学会発表〕(計2件)

竹原新、イランの昔話とフィールドワーク、日本昔話学会2016年度大会シンポジウム「昔話の民俗学的研究の可能性」、2016

竹原新、イランの怪談、説話・伝承学会2016年度大会講演会、2016

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。